



平成27年12月18日

ゲノム医療前進 抗がん剤適応遺伝子検査外来を開設

岡山大学病院腫瘍センターは12月1日、新しい専門外来「抗がん剤適応遺伝子検査外来」を設置しました。本外来では、適切な治療が無いがん、抗がん剤が無効となったがん患者に対して、がん細胞の遺伝子異常を新しい技術で網羅的に検査します。そして、医師を含めた複数の専門家によるチームが結果を検討・診断し、各々の患者に適した治療薬を見つめることを目指します。

現在、日本人の死因の第1位であるがん*の多くは、遺伝子の異常により発症することが知られています。また、がんの遺伝子の異常を標的とする抗がん剤が次々と開発されるなど、ゲノム医療は日々進歩しています。

岡山大学病院は、先進の技術と知見を駆使した新しいがんゲノム医療サービスを通じて、がん患者の診療に貢献していきます。

<詳細>

岡山大学病院腫瘍センターに設置された「抗がん剤適応遺伝子検査外来」では、標準的な治療が無いがん、抗がん剤が効かなくなったがん患者に対して、代表的ながんの遺伝子異常を網羅的に検査します。検査は、それまでの検査や治療で得られたがんの組織などを使用。がんに関係する遺伝子の解析は一定の基準を満たした国内外の専門機関で行います（図）。得られた解析結果を、担当医、腫瘍内科医、放射線科医、病理医、ゲノム解析研究者（バイオインフォマティシャン等）、看護師、遺伝カウンセラー、薬剤師などの複数の専門家によるカンファレンスにより検討。治療薬の候補など、診療の支援を行うことを目指します。また、得られたがんの遺伝子解析の結果は、患者から同意が得られた場合、今後、がんを含めたゲノム医療の進歩のために研究利用することを予定しています。

本外来は、がん患者の治療の選択肢を広げ、同時に、ゲノム医療の発展に貢献することを目指しています。

<背景>

日本人の死因の第1位であり、3人に1人が死亡しているといわれているがんの多くは*、遺伝子の異常により発症することが知られています。現在、がんの薬物治療は、がんが発生した臓器により抗がん剤が選択されて治療に使われています。ただ、最終的に治療が効かなくなることが多いのが現状です。

このような中、ゲノム医療の進歩により一部のがんでは臓器別に決められた抗がん剤による治療のほかに、各患者のがんが持つ遺伝子変異を標的とした抗がん剤による治療が効果を示し、標準治療になりつつあります。今後は、特定の遺伝子の異常を検査することで、がんが持つ遺伝子変異を標的とした治療を受けることができると期待されています。

(* <http://www.mhlw.go.jp/seisaku/24.html>)



PRESS RELEASE



図：抗がん剤適応遺伝子検査外来

<お問い合わせ>

岡山大学病院腫瘍センター

助教 久保 寿夫

准教授 田端 雅弘

(電話番号) 086-235-6968

(FAX番号) 086-235-6968

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 (医)

助教 母里 淑子

教授 豊岡 伸一

(電話番号) 086-235-7436

(FAX番号) 086-235-7437